

の結果、二酸化硫黄放出量は2007年6月以降、一日あたり500トン前後で経過していたが、10月24日、25日には800~1,100トンとやや増加していた。

国土地理院のGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くがB型地震で、A型地震も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどがA型地震とBL型地震(約2Hz付近が卓越し、P及びS相が不明瞭な地震)であった。その他にも、BP型地震(一つのスペクトルピークが見られる地震)やBT型地震(コーダ部が一様にゆっくりと減衰する地震)が時々発生した。A型地震の震源は新岳火口直下浅部に求まり、BL型、BP型及びBT型地震の震源は求まっていないが、新岳火口直下のごく浅い所と推定される。

GPS連続観測では新岳の膨張傾向は、昨年12月以降鈍化しつつも継続している。

遠望カメラ(新岳火口の北西約3kmに設置)による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

10月26日に御岳火口で爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

(お知らせ)最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責:気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○京都大学防災研究所平成20年度共同研究の募集について

1. 公募事項

- 1) 一般共同研究の募集
- 2) 萌芽的共同研究の募集
- 3) 研究集会の募集

2. 申請資格: 国立大学法人、公・私立大学、国公立研究機関及び独立行政法人機関の教員・研究者又はこれに準ずるもので、京都大学防災研究所の教員以外のもの。ただし、萌芽的共同研究及び研究集会の代表者については、必要な場合に限り防災研究所の教員も代表者となることできる。

3. 申請方法: 所定の様式による申請書に必要事項を記載の上、各1部を提出ください。

4. 研究期間:

- 1) 一般共同研究は、平成20年4月から1~2年間
- 2) 萌芽的共同研究は、平成20年4月から1年間
- 3) 研究集会は、平成20年4月から平成21年2月までに開催されるもの

5. 申請期限: 平成19年12月7日(金)

6. 提出先: 〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学 宇治地区事務部 研究協力課 共同利用担当
(Tel; 0774-38-3352, Fax; 0774-38-3369,
E-mail; uji.sien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

7. 選考及び通知: 申請課題の採否及び経費査定は、本研究所共同利用委員会の議を経て、教授会で決定します。採否結果通知は申請者あて2月中旬に行います。決定額の通知は、7月頃の予定です。

8. その他:

- 1) 本共同研究に関する事項・申請書の様式は、Webサイトで確認することができます。(http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/kyodo/kyodo20.html)
- 2) 申請は、それぞれ別紙様式によるものを使用してください。なお、申請書は電子媒体の添付ファイルで送信ください。書式「Microsoft Word形式のみ」が必要な場合はご連絡ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月8日送信しました)

○シンポジウムのご案内

岡山大学地球物質科学研究センターでは、21世紀COEプログラムの一環として以下のような国際シンポジウムを開催いたします:

COE-21 International Symposium, MISASA-3

"Origin, Evolution and Dynamics of the Earth: a tribute to Eiji Ito"

21-23 March, 2007, Misasa, Japan

シンポジウムの詳細は当センターウェブサイトの

<http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/symposium/sympoFY07/>

のページからご覧いただけます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月26日送信しました)

○公開講座のお知らせ

【地球化学研究協会】

公開講座:「これから日本を襲う大地震」

阿部勝征先生(財・地震予知総合研究振興会地震調査研究センター所長, 東京大学名誉教授)

記念講演:「地球表層における温室効果気体の精密測定と循環像の解析」 三宅賞受賞者・中澤高清博士(東北大学大学院理学研究科教授)

日 時: 2007年12月8日(土) 14:30~

場 所: 霞ヶ関ビル33階 東海大学校友会館(地下鉄銀座線虎ノ門・千代田線霞ヶ関, 下車)

参加費: 賛助会員および学生は無料, 一般1,000円(資料代を含む), 懇親会へも参加できます。当日も受け付けますが, 参加人数把握のため, t-sagi@ma3.gyao.ne.jp までお知らせ下さると幸いです。

地球化学研究協会ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/gra/>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月9日送信しました)

○21世紀COE国際シンポジウム開催のお知らせ(12/3-4)

21世紀COEプログラム「多圏地球システムの進化と変動の予測可能性」

The 21st Century Center of Excellence (COE) International Symposium: "Predictability of the Evolution and Variation of the Multi-scale Earth System"

開催日時: 平成19年12月3日(月), 4日(火)

場 所: 東京大学本郷キャンパス山上会館

プログラムの詳細については下記のサイトをご参照ください。

<http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp/jp/COE21/events/20071203p.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月26日送信しました)

○国際火山工学ワークショップ「活火山周辺の土砂災害と対策」

開催日時: 平成19年11月28日(水) 13:30~16:30

場 所: 東京大学地震研究所2号館第1会議室

主 催: 土木学会地盤工学委員会火山工学研究小委員会

趣 旨: 火山における土砂災害は, 国内外において大きな課題となっています。とくにインフラへ与える影響は広域かつ長期的となるため, 災害への備えと軽減が土木工学の課題となっています。火山工学研究小委員会では, 海外の事例を含め国際的な議論を行うことを目的としてワークショップを開催します。

1. 開会挨拶 (13:30) 高橋和雄(長崎大学工学部)

2. 基調講演 (13:40)

「噴火後の河床上昇がインフラへ与える影響予測
Potential impact of post-eruption river channel aggradation on infrastructure」

トーマス・ピアソン博士
(USGS カスケード火山観測所)

3. 話題提供 (14:10~15:30)

(1) 「火山灰の物理特性と堆積範囲を考慮した泥流発生モデル」 山越隆雄(土木研究所)

(2) 「メラピ火山における火山災害減災対策; インフラ保全計画の戦略開発」

ハリヨノ・ウトモ(インドネシア砂防センター)

(3) 「土石流, 泥流の災害特性とハザードマップ」
安養寺信夫(砂防・地すべり技術センター)

(4) 「火山噴火緊急減災対策砂防計画に基づく火山砂防の新たな展開」

西本晴男(国土交通省河川局砂防部)

4. 総合討論 (15:40~16:30)

進行 北村良介(鹿児島大学工学部)

(1) 火山の土砂災害予測 量的予測の可能性と限界

(2) 土砂災害対策 ハードとソフトのバランス

(3) 大規模噴火災害はどこまで対策を実施すべきか
投資効果に上限はあるか?

(4) 世界の火山災害に対する火山工学の貢献

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月26日送信しました)

○火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ 2007 開催のご案内

<開催趣旨>

噴火の兆しを捉えながらも, 実際の噴火には至らなかった国内外の火山の事例(噴火未遂事象)を基に, 行政の判断, 対応や避難命令の内容・時期などについて, それらが抱える現在の問題点と改善に向けた課題を検討する。また, 住民・行政・専門家の連携が問われる災害発生時の効果的な情報伝達について情報を受け取る市民の心理も視野に入れ, より良い方策を探る。

<主催> 山梨県環境科学研究所・(独)防災科学技術研究所

<後援> 気象庁・内閣府・文部科学省・日本火山学会・富士山火山防災協議会

「2000年富士山低周波地震活発化と噴火未遂」

日 時 平成19年12月16日(日) 13:30~17:30

会 場 山梨県環境科学研究所 多目的ホール
(〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1)

定 員 130名(申込順)

「海外・国内の噴火未遂事象に学ぶ一どのように対応するか、判断するか?」

日 時 平成19年12月18日(火) 09:30~16:00

開催場所 防災科学技術研究所 研究交流棟
和達記念ホール
(〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1)

定 員 200名(申込順)

参加申込 ご氏名・ご所属・参加希望日(16日・18日)を明記の上、メール(kazan-ws07@bosai.go.jp)もしくはお電話・FAXにてお申込ください。

参加費 無料

その他 同時通訳あり

プログラム詳細につきましては、防災科学技術研究所ホームページをご参照下さい。

URL: <http://www.bosai.go.jp/>

お問い合わせ:

(独)防災科学技術研究所 火山防災研究部

藤田/中村

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1

Tel: 029-863-7537, Fax: 029-851-5658

E-mail: kazan-ws07@bosai.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月7日送信しました)

○COV5 プログラム、要旨集の案内

日本火山学会員の皆様

Cities on Volcanoes 5 Conference (火山都市国際会議島原大会)までいよいよ後20日となりました。

今回の会議にはこれまでに575名の参加登録があり、参加登録者600名を超える規模の、これまでのCOVで最多参加者の会議になる見通しです。参加国は日本以外に33カ国3地域の予定です。この会議には、地元、防災関係機関などが中心となって準備している複数の火山災

害に関するフォーラムや、日本火山学会の公開講座も予定されており、学術以外にも1000名をゆうに超える参加者があると予想されます。

大会のプログラム(英文)は次号発行の火山の巻末に綴じてあるほか、以下のCOV5のホームページからもダウンロードいただけます。また、講演要旨集も和文・英文ともダウンロードが可能です。

<http://www.citiesonvolcanoes5.com/jp/>

まだ登録されていない方で、この際、参加してみたいとお考えの方は是非お越し下さい。

なお、ホームページからの登録は10月31日で終了となり、参加登録は現地で18日(秋季大会の日)午後以降となります。

最後に、本会議開催に際して、多くの会員や団体からご寄付をいただきました。おかげさまで当初の目標をほぼ達成することができました。寄付金は大会開催日前日(11月18日)までに寄付申込書を学術振興会に送付すれば受けられます。ご寄付予定でお忘れの方がいましたらお願いします。

では会場で皆様にお会いできるのを楽しんでいます。

大会実行委員長

中田節也

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月29日送信しました)

○会員名簿非公開項目の確認

会員の皆様

現在、会員名簿作成に伴う登録内容確認のお願い(11月30日〆切)を差し上げているところですが、登録内容の変更のない方であっても、再度、非公開項目を連絡するようにお願いします。

郵送した資料に記入の上返信いただくか、以下のホームページに入り修正が可能です。非公開項目のチェック入力だけでも受け付けます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/index.html>

なお、入力ページに入るために必要な会員番号は会誌やプログラムを郵送した封筒宛名の下に印刷されています。メールアドレスは学会に登録したものに限りです。

以上、よろしく申し上げます。

火山学会事務局

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月24日送信しました)